

---

2024/08/21

第 15 回アカデミア交流会

「パーキンソン病の腸脳相関と新規治療法開発への展望」

講演者：名古屋学芸大学管理栄養学部 大野 欽司 教授

場所：東京 LINK-J ビル（ハイブリッド開催）

参加者：63 名（現地参加者 11 名＋オンライン参加者 52 名）

JMBC では、定期的にアカデミアとの交流会を開催しています。

今回は、名古屋学芸大学管理栄養学部の大野欽司教授にご登壇いただき、神経疾患であるパーキンソン病（PD）および関連疾患と腸内細菌叢の関係性に関するご講演をいただきました。

大野先生は、223 名の自験 PD 患者を含む 5 カ国の PD 患者の腸内細菌叢解析を行い、PD 患者の腸内細菌叢で腸管壁ムチンを破壊する *Akkermansia* の増加と異常炎症を抑制する短鎖脂肪酸 (SCFA) 産生菌の低下が起こっていること、この SCFA 産生の低下を見ることで初期 PD の 2 年間の進行を 83.3% の正確度で予測できることを見出し、腸内細菌叢の変化が PD の進行を決定する可能性を示されました。また、2 次胆汁酸など腸内細菌叢メディエータとの関連性も含めた多方面からの考察も含めてご紹介いただきました。

講演後の質疑応答でも活発な議論が行われ、大いに盛り上がりました。



大野先生

---

○ 大野先生のご略歴

- 1983年 名古屋大学医学部卒業
  - 1983年 国立名古屋病院研修医・神経内科医
  - 1988年 名古屋大学大学院・神経内科学専攻
  - 1992年 日本学術振興会特別研究員・名古屋大学医学部第2生化学
  - 1993年 Research Fellow, Research Associate, and Assistant Professor. Mayo Clinic and Mayo Medical School, Rochester, Minnesota, USA
  - 2004年 名古屋大学大学院医学系研究科・神経遺伝情報学・教授
  - 2009年 名古屋大学大学院医学系研究科・副研究科長(兼任)
  - 2017年 名古屋大学総長補佐(兼任)
  - 2020年 名古屋大学副総長(兼任)
  - 2024年 名古屋学芸大学管理栄養学部教授・教養教育機構副機構長
-